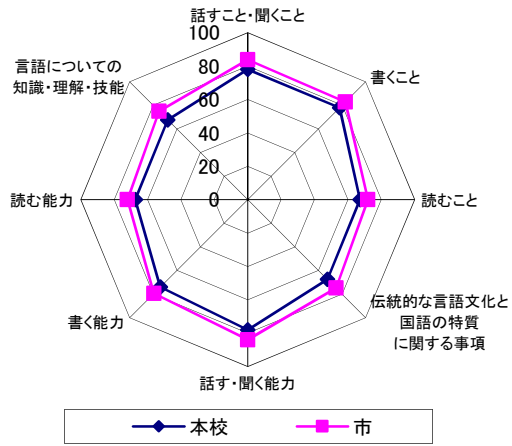


宇都宮市立若松原中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	78.0	83.9	83.1
	書くこと	77.8	82.9	68.6
	読むこと	67.4	72.0	67.8
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	67.5	74.8	68.7
観点別	話す・聞く能力	78.0	83.9	83.1
	書く能力	74.1	79.3	67.0
	読む能力	67.4	72.0	67.8
	言語についての知識・理解・技能	67.7	75.0	68.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

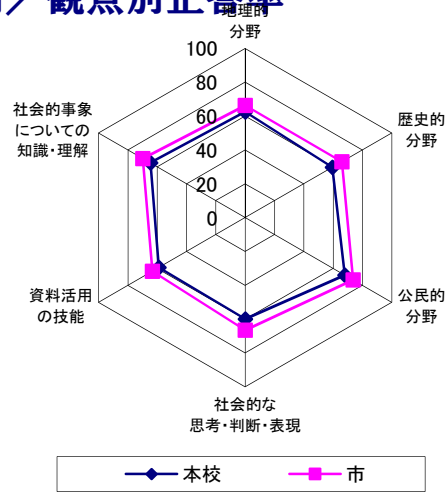
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	●参考値、市のポイントより5ポイント以上低い値となった。 ○話の内容を正確に聞き取ることは比較的参考値や市のポイントに近かった。	・質問事項に対し、聞き手が求める適切な答え方ができるよう、話し手の要点を押さえながら聞き取る指導をしていく。 ・聞き手がわかりやすい表現をする意識を持たせ、他者に理解してもらえる話し方を工夫する機会を設ける指導をする。
書くこと	○参考値より9ポイント高い値となった。 ○自分の立場を明確にして書くことのポイントが比較的よかった。 ●市のポイントより5ポイント低い結果となった。	・文書を書く機会を増やしたことで、少しずつ抵抗なく文章を書くことができるようになったので、継続して指導をしていく。 ・読み手にわかりやすい表現となるよう、相互で読み合わせをするなどの指導をしていく。
読むこと	○参考値とほぼ同じポイントになった。 ●市よりも5ポイント低い結果となった。 ●論理の展開の理解、表現の特徴の設問の正答率が低かった。	・文章の展開を捉えることができるようになってきたが、論理展開や要約することが苦手なので、その点について意識して指導していく。 ・表現の特徴や人物像をまとめることができるような指導をしていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	●参考値より1ポイント、市よりも7ポイント低い結果となった。	・語彙不足が漢字の書き取りや類義語、対義語の間違いにつながっているのを、辞書を活用し正しい知識の確認をさせる指導をしていく。

宇都宮市立若松原中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	62.6	66.2	58.0
	歴史的分野	59.4	65.8	60.8
	公民的分野	68.0	73.5	69.2
観点別	社会的な思考・判断・表現	59.9	66.6	58.6
	資料活用 of 技能	59.1	63.4	55.9
	社会的な事象についての知識・理解	64.7	69.8	64.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(社会では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	○参考値を4. 6ポイント上回っている。資料を活用しながら解く問題が良好であった。 ●基本的な知識・理解が定着していないため、思考・判断を求められる時に、より市の数値との差が大きくなる。	・1年次から地理的事象に対して、「なぜ」「どうして」と考える機会を設けてきた。これを今後も継続する。 ・歴史的分野のように、基礎的な語句に対しては、反復して定着させる機会を設けていく。
歴史的分野	○参考値をやや下回った。基礎的な語句については、おおむね理解できている。 ●語句の背景や、歴史上の出来事の結びつき、流れを問う問題が正答率が低い。	・「覚える」だけでなく、「分かる」という必要性を生徒が実感できる授業を展開していく。 ・歴史も流れがあり、一つの出来事の背景にあるものなどを考えさせたり、互いに学び合う機会を話し合い活動などで与えていく。
公民的分野	○「日本国憲法」「裁判の仕組み」の正答率が高い。 ●市、参考値ともに下回っている。知識を活用する問題の正答率が低い。	・話題が豊富で生徒の関心を集めやすい単元の正答率は高いので、他の単元で生徒が興味を持てるような教材の開発を社会科として取り組む。 ・継続して取り組んできた話し合い活動をより深めるために、テーマや題材を工夫する。 ・ドリル形式で、重点項目については徹底した反復練習を行う。

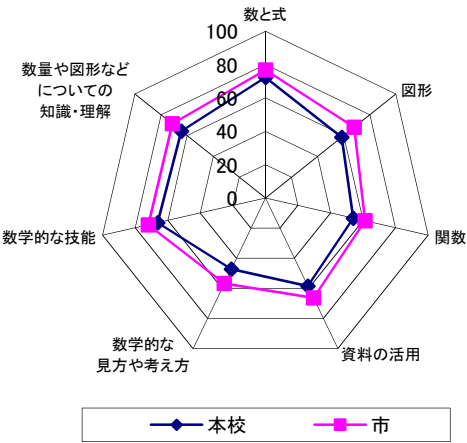
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

宇都宮市立若松原中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	72.4	76.7	72.6
	図形	58.6	68.1	63.8
	関数	53.9	61.2	54.4
	資料の活用	58.6	66.3	55.4
観点別	数学的な見方や考え方	47.1	56.8	50.8
	数学的な技能	66.2	71.9	66.7
	数量や図形などについての知識・理解	64.4	71.4	63.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○他3領域と比べるともっとも正答率が高い。全国平均と比べると12問中7問で上回った。 ●市平均と比べると4.3ポイント低い。	・全クラス授業毎に宿題として、A4版1枚のプリントを出している。計算問題が中心で、クラスの8割以上の生徒が提出できている。観点別で見ても数学的な技能の正答率が他2観点に比べ高く、今後も継続し計算の技能が上がるようにしたい。市平均と比べ正答率が低かったのは平方根・2次方程式の問題であるため、3年の学習内容を重点的に練習するようにする。
図形	○作図の問題は市平均を0.5ポイント上回った。 ●市平均との差が最も大きい領域だった。9.5ポイント差。特に相似の問題では、相似の性質から辺の長さを求める問題で、正答率が市平均を17.2ポイントも下回った。	・市平均と比べ大きく差が出たのが証明の記述問題である。授業の中で記述に挑戦する機会を増やしていかなければならない。22.8%の生徒は無回答であることから、記述に取り組むこともできていない生徒が多い。授業の中でまずは穴埋めからなどと段階的に理解させていく必要がある。
関数	○反比例・一次関数の問題に関しては、全国平均を上回った。 ●xの2乗に比例する関数の問題では、市・全国平均に比べともに下回った。特に点の座標を求める問題で大きく下回った。	・図形と同じように短答型の問題でも無回答の生徒が目立つ。校内のテストでも見方考え方の問題では無回答の生徒が多いことから、発展的な内容の問題には取り組むこともできない傾向にある。全体の正答率分布を見ても、90%～100%の生徒が市平均に比べて少ないことがわかるので、下位の基礎的な力の向上とともに、上位をさらに伸ばすような指導が必要である。
資料の活用	○確率の問題に関しては、全国平均を上回った。 ●度数分布表から相対度数を求める問題では、市・全国平均をとともに下回った。	・相対度数が求められない原因に、小学校で学ぶ割合が十分に理解できていないことが考えられる。小学校で学習した内容が定着していない生徒が少なからずいるのが現状であることから、そういった生徒への学習指導を考える必要がある。

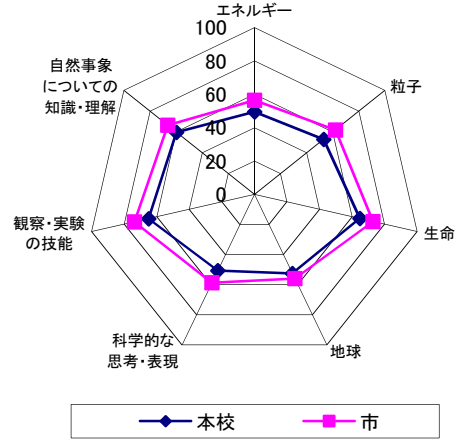
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

宇都宮市立若松原中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	49.6	56.4	49.9
	粒子	53.0	62.0	57.4
	生命	64.8	72.9	67.1
	地球	52.5	56.0	48.5
観点別	科学的な思考・表現	50.5	58.8	52.1
	観察・実験の技能	65.1	73.8	67.6
	自然事象についての知識・理解	59.9	66.5	61.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

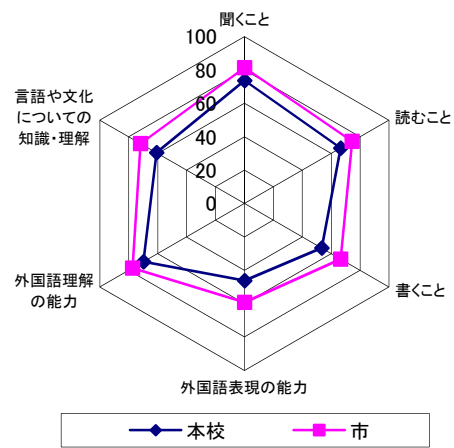
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	○参考値とほぼ同じポイントである。 ○光の性質について、概ね理解している。 ●電流の性質では、家庭生活と関連づけて理解していない生徒も見られる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・実験観察に進んで取り組んでいるが、そこから何がわかったかを考えたり、まとめたりする活動に力を入れていきたい。 ・学習内容と日常生活との関連を意識させる機会を多く設定する。 ・学習内容の定着を図るため、問題演習を多くする。
粒子	○参考値より、4ポイント低い。 ○水溶液の性質について、概ね理解している。 ●イオンについて理解が十分でない生徒も見られる。 ●化学変化について理解が十分でない生徒が多い。	・自分の考えをノートに書いたり、それをグループで発表し、話し合う活動の時間を十分確保し、一人一人の思考の深まりを図る。 ・学習内容の定着を図るため、問題演習を多くする。
生命	○参考値より、2ポイント低い。 ○光合成について、概ね理解している。 ●動物のからだのつくりとはたらきについては、身近な現象と関連づけて理解していない生徒も見られる。	・実験観察に進んで取り組んでいるが、そこから何がわかったかを考えたり、まとめたりする活動に力を入れていきたい。 ・ICTを活用し、学習内容の理解に役立てる。 ・学習内容の定着を図るため、問題演習を多くする。
地球	○参考値より、4ポイント高い。 ○天気について、概ね理解している。 ○火成岩について、概ね理解している。 ●天気図から天気の変化を予想する問題では、正答率がやや低く、既習の知識をもとに考えることが苦手な生徒も見られる。	・地球や宇宙についての興味・関心が高い生徒が多い。知的好奇心をさらに高めるよう、ICTをより活用していく。 ・学習内容の定着を図るため、問題演習を多くする。 ・天気の変化をより身近に感じるため、テレビや新聞等で日頃から天気予報を見る習慣をつけさせる。

宇都宮市立若松原中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	73.7	81.4	76.1
	読むこと	66.5	74.4	71.2
	書くこと	53.3	66.5	60.7
観点別	外国語表現の能力	46.1	59.3	51.7
	外国語理解の能力	69.8	77.5	72.8
	言語や文化についての知識・理解	60.9	72.0	69.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○ALTの先生の授業をできるだけ入れるようにして、英語を聞いたり、会話をしたりする機会を増やした。 ●そのため、単語やある場面の中での聞き取りをする力についてはついてきたが、対話の内容を把握する力はまだまだ低い。	・授業の中で場面の設定を工夫して、ALTやJTEとの英語での対話を増やしていきたい。また、生徒にできるだけ自然な英語を聞く機会を与えたり、DVDやCDの教材を活用しリスニング練習を増やしたい。 ・長い英文や対話を聞くとときには、重要な情報や聞き取ったものをメモするといった習慣も、引き続き指導していきたい。
読むこと	○基礎的・基本的な学習内容はほぼ定着しているものと考えられる。 ●長文をみただけで諦めてしまう生徒が多い。 ●教科書等を読むときにも、指示語の具体的な内容を考えさせながら読ませていたが、長文の概要を把握したり、必要な部分の情報を探し出す力に欠けている。	・英語の文章の段落ごとに、あるいは文章全体で何を言っているのかを簡単にまとめさせる練習を増やし、概要や要点をつかむような読み方の指導に力を入れていきたい。 ・英文の内容に関して、英語・日本語での質問に答えさせたり、文章中の指示語が具体的に何を指しているのかを考えながら読むよう、指導していきたい。
書くこと	○この領域の平均正答率は他の領域よりも正答率が低いため、今年度はドリル学習を取り入れ文法の定着を図る努力をしてきた。 ●持っている知識をどの場面で使ったら良いのかを考える力が弱い。	・単語や熟語を正しく書けるように、パズルなどの形式を取り入れたりして生徒が意欲的に取り組めるようにする。また、覚えたことが定着するよう、小テストなどを繰り返し実施していく。 ・条件作文や与えられた場面の中で、どんな言葉を使えばよいのかを考えさせる場面や練習を増やし、覚えた文型の運用能力を伸ばしていくようにする。